

# 大きな主役が消えた

中嶋嶺雄・前東京外国語大学長（現代中国学） 中国にとっても、台湾にとっても、一つの大きな同時代史が終わったという印象がある。

中国は、張学良氏を西安事変の立役者として、言うまでもなくその抗日に果たした歴史的役割を高く評価している。確かに西安事変がなければ、中国の命運は大きく変わっていたであろう。

台湾でも、蒋介石を監禁した人物ではあるが、大陸に残留せずに台湾に行き、年まで沈黙を守った張学良氏を評価していた。ハワイに渡ってからは動静がよくわからなかったが、確かに中国を訪れたとも伝えられた。

一方、李登輝前総統は九月四年五月、中米訪問の際、給油にハワイに立ち寄ったとき、ひそかに張学良氏を病院に見舞っている。時代を隔ててくしくも二人は、台湾でも、蒋介石を監禁した人物ではあるが、大陸に残留せずに台湾に行き、年まで沈黙を守った張学良氏を評価していた。ハワイに渡ってからは動静がよくわからなかったが、確かに中国を訪れたとも伝えられた。

## 評伝

西安事件（一九三六年十二月）の立役者であった張学良氏の足跡を何度か訪ねたことがある。事件の舞台となった西安郊外の華清池、ちっ居生活を過ごした台北・北投の邸宅。そして晩年を過ごしていたホノルル市内。ワイキキの浜辺に近い高級コンドミニアムで悠々自適の晩年を過ごしたかの張氏だが、中国共産党などが働きかけてきた中国東北部・遼寧省への帰郷には応じず、あえて異境の地を選び晩節をまっとうした。

張氏の生涯は、四楽章で構成された交響曲にたとえることができよう。つまり、第一楽章は満州馬賊から奉天軍閥の総帥となつた父、張作霖のもとで軍人

## 異郷に逝った張学良氏

ハワイでの晩年。激烈な主旋律が響く曲の間かせごころは、むろん第二楽章に違いない。

西安郊外を訪れたときの元首、蒋介石が東北軍を率いる張氏ほか西北軍司令、楊虎城配下の兵力により身柄を拘束され、抗日救国路線への転換を受諾し

# 筋貫いた終生の中国軍人

江西省瑞金から陝西省延安に根拠地を移したものの、中国国民党の軍事包囲のなかで毛沢東率いる中国共産党は盤石とはいえない存在だった。西安事件を機に成立した第二次国共合作によって、共産党は国民党軍の追撃を逃れ得ただけでなく、抗日

西安事件後、首都・南京での軍法会議に引き出された張氏は三十歳代半ば。中国大陸と台湾にまたがる幽閉が実に半世紀にわたったことを思えば、張氏の歴史的な役割はわずか半月にすぎない真冬の西安での日々凝縮され、燃え尽きたといえる。

たのは、父を殺害された恨みを核（コア）とする抗日意識と、その情念を昇華させた愛国心だったことは議論をまたない。いずれにせよ、張氏は事件の幕が下りると、終生の伴ひよとなる趙一荻女史の制止を振り切つて蒋介石とともに処断の待つ

## 識者談話

伊原吉之助・帝塚山大学名誉教授 張学良氏は軍人だった。内戦の終結と祖国の統一を願い、統一を邪魔する日本と戦うため西安事変をひき起こした。狙い通り一致抗日を実現し、八年抗戦ののち、日本を中国から駆逐した。

しかしその戦いに自らは参加できず、しかも、西安事変のおかげで生き延びた中

蔣介石は、南京の軍事裁判で懲役十年の判決を受けた張学良氏を特赦の上、軟禁し続けた。特赦したのは「抗日」で一致していたからだし、軟禁は「保護」のためだったようだ。張学良

を国共合作といつた座標軸で考える時代はもはや終わつたのだ。

## 運命に翻弄された一生

氏は、兵諫（武力による諫言）の責任をとって、軟禁を解かれたあと故郷に帰らず、異境で果てた。

運命に翻弄（ほんろう）されたながら、背筋をピンと伸ばし、与えられた人生を筋を通して生き抜いた男の一生に、凜然たる思いがする。

十二月、中国・陝西省北部の中国共産党根拠地に対する攻撃を奨励するため西安を訪れた蒋介石が、現地で作戦を指揮していた張学良、楊虎城に監禁された事

## 近代史の流れ変えた

陳騰仁・中国文化大学教授（前中国国民党党史委員会主任委員） 台湾、今年一月にハワイの自宅で会ったが、すでにかなり弱っていた。張学良氏は西安事件からいへば彼の罪は重かつた。

西安では周恩来、宋美齡と三者会談を行い密約を交わしたはずだが、宋美齡の名譽のため、ついにその内容をもらさなかった。軍人らしい気迫と男気のある人物だった。台湾に移つてからは宋美齡、蔣経国親子と親しかった。

西安では周恩来、宋美齡と三者会談を行い密約を交わしたはずだが、宋美齡の名譽のため、ついにその内容をもらさなかった。軍人らしい気迫と男気のある人物だった。台湾に移つてからは宋美齡、蔣経国親子と親しかった。

## 偉大な愛国者

【北京15日＝伊藤正】 新華社電によると、中国の江沢民国家主席は十五日、ホノルルで死去した張学良氏の遺族に弔電を打ち、張氏が西安事件で果たした「歴史的貢獻」を称賛、「偉大な愛国者」「中華民族の永遠の功臣」と述べた。

同電によると、中国は張氏が重体に陥つた後、見舞いのため許士国駐シンゼルス総領事代行をホノルルに派遣、死去後には花輪を贈った。